

■ 大学院 国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション研究専攻

| |
|--|
| <p>教育研究上の目的</p> |
| <p>大学院学則第2条（目的） 本大学に設置する大学院（以下「本大学院」という。）は、課程の目的に応じ、学理及びその応用を教授・研究し、学術の深奥を究めて、人類社会の発展に貢献しうる人材を養成するとともに文化の進展に寄与することを目的とする。</p> |
| <p>大学院学則第6条の2（研究科及び専攻） 修士課程においては、国際的にも国内的にもグローバル化が進行し、同時にローカルな視点も求められる現代の状況に活躍できる人材の育成を目的とする。その方法としては、次の3領域を有機的に関連させることに特色がある。第一は、英語と日本語に関する専門知識と運用能力に重点を置いた言語コミュニケーション研究。第二は、国際関係分野での国際関係論、国際ビジネスと異文化理解に関する研究。第三は、文化人類学・民俗学の視点を取り入れた多文化間比較研究である。</p> |
| <p>学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p> |
| <p>【修士課程】 国際コミュニケーション研究科（修士課程）では、学則第6条の2に示す人材の養成を目指します。この目標に沿って、所定の単位を修得し、言語コミュニケーション研究領域、国際関係研究領域、多文化間比較研究領域のいずれかの研究領域において、以下の資質、能力及び知識を修得した学生に「修士（国際コミュニケーション）」の学位を授与します。</p> |
| <p>1. 資質（主体性・多様性・協同性） (1) 国際コミュニケーションに関連する学術的問題に取り組む姿勢を有している。 (2) グローバルな環境において多様性を尊重し、他者と協同しつつ、問題発見と問題解決に取り組む姿勢を有している。</p> |
| <p>2. 能力(思考力・判断力・表現力) (1) 国際コミュニケーションに関連する学術的問題において独創性のある研究を起ち上げ、遂行する力を有している。 (2) 国際コミュニケーションに関連する諸問題をクリティカルに読み解く力を有している。 (3) 豊かな国際感覚を有している。</p> |
| <p>3. 知識(技能) 国際コミュニケーションの学問領域に関する高度な専門知識を有し、グローバル化が進展する環境で活躍する能力を有している</p> |
| <p>教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）</p> |
| <p>【修士課程】 国際コミュニケーション研究科（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。</p> |
| <p>(教育内容)</p> <p>【言語コミュニケーション研究領域（英語）】</p> <p>1. 英語学における史的・研究、コーパス言語学、認知言語学の研究方法を修得するため、「英語学研究」「英語コミュニケーション研究」を配置する。 2. 英語教育学における教授法、教育社会学、コミュニケーション論を修得するため、「英語教育学研究」「英語コミュニケーション研究」「英語圏文化研究」を配置する。 3. 英語学、英語教育学の修士論文を作成するために必要な知識や技能を習得できるように「英語学研究演習」「英語教育学研究演習」「英語コミュニケーション研究演習」を配置する。</p> |
| <p>【言語コミュニケーション研究領域（日本語）】</p> <p>1. 日本語の言語構造に関する研究及び社会における言語の役割を視点に分析する日本語研究の方法を習得するため、「日本語学研究」「日本語コミュニケーション研究」を配置する。 2. 広い視野から日本語の特性を分析する研究方法を習得するため、「日英対照言語研究」「日中対照言語研究」「言語学特殊講義（一般言語学）」「音声学」を配置する。 3. 日本語教育分野における言語教育法、第二言語習得、学習者特性等に関する研究方法を習得するため、「日本語教育学研究」「日本語教授法」を配置する。 4. 日本語学及び日本語教育学に関する調査研究を行い、学位論文にまとめるための知識や技能を習得できるように「日本語学研究演習」「日本語教育学研究演習」を配置する。</p> |
| <p>【国際関係研究領域】</p> <p>1. 政治哲学、国際政治学、国際経済学、国際社会学などを基本に、国際関係学（グローバルスタディーズ）を軸とした世界認識、論理的思考を身につけるため「国際関係研究」を配置する。</p> |

愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

2. ライブラリーワークだけに収束せず、広く生き生きとした現実感覚に拠りながら研究を進め、世界秩序の在り方へのより深い理解のための柔軟な姿勢を養うために「フィールドワーク」を配置する。

【多文化間比較研究領域】

1. 文化人類学やフォークロアを中心とする多元的文化理解の思考方法を身につけるため「多文化間比較研究」を配置する。
2. ライブラリーワークだけに収束せず、現実に即した文化理解や多種多様な文化を理解する柔軟な姿勢を養うために「フィールドワーク」を配置する。

（教育方法）

【言語コミュニケーション研究領域（英語）】

1. 英語学、英語教育学に関する専門知識を修得し、主体的な研究ができるよう英語学においては通時的、共時的な分野、英語教育学においては英語教授法、第二言語習得の授業科目を系統的に配置し、演習、講義形式で実施する。

【言語コミュニケーション研究領域（日本語）】

1. 演習と講義を織り交ぜ、他者との協同や教師との対話を通じて、日本語及び日本語教育に関する学術的問題を読み解く。
2. 日本語教育実習や研究調査により座学で得た知識を裏付け、独創性ある研究に発展させる。

【国際関係研究領域】

1. 演習形式の授業をつうじて、国際政治、経済、社会の理論と現場とに豊かな実践経験を持つ教員と文献研究、ケーススタディの学修ができるような教育をめざしている。
2. 学生が主体的学修を実践できるよう、多角的な視座を養うプレゼンテーション・スキルや情報収集・分析の実践、さらにそれらを生きた人間社会の研究へと繋げられるよう「フィールドワーク」を奨励する。

【多文化間比較研究領域】

1. 演習形式の授業をつうじて、豊かなフィールド経験を持つ教員と実例を通じた学修ができるようにする。
2. 学生が主体的学修を実践できるよう、アクティブ・ラーニング的教授方法として「フィールドワーク」を奨励する。

【言語コミュニケーション研究領域（英語・日本語）・国際関係研究領域・多文化間比較研究領域】

1. 学生のフィールドワークに対しては、対象、方法、合法性などにおいて適切かどうか、慎重な審査を行ったうえで、奨学金も支給し、学修をサポートする。

（学修成果の評価）

国際コミュニケーション研究科（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メソ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、修士論文の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

【修士課程】

国際コミュニケーション研究科（修士課程）では、国際的・国内的にグローバル化が進行し、同時にローカルな視点も求められる現代の状況のなかで活躍できる人材の育成を目的とした学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するために、言語コミュニケーション研究領域、国際関係研究領域、多文化間比較研究領域のいずれかの研究領域において、以下のような資質、能力及び知識を備えた学生を、各種選抜方法を通じて受け入れます。

1. 資質（意欲・関心）

- (1) 英語文献学、英語学、英語教育について研究し、それらの専門的能力を活かした仕事に携わりたいと考えている人
- (2) 日本語、日本語教育について研究し、それらの専門的能力を活かした仕事に携わりたいと考えている人
- (3) 社会科学的思考に関心があり、国際関係の仕事に就きたいと考えている人
- (4) 国際商取引、商事仲裁など国際ビジネスに関心をもって人
- (5) 異文化、多文化共生、国際コミュニケーションについて関心がある人

2. 能力（思考力・判断力・表現力）

- (1) 研究を行うためのクリティカルで論理的な思考能力
- (2) 研究に適したレベルの諸言語能力

3. 知識（技能）

- (1) 専門的研究活動を展開する上で必要とされる学士修了レベルの知識・経験
- (2) 母語以外の語学における専門的研究活動及び修士論文作成に関する4技能（読む、書く、聞く、話す）

愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

4. 知識（技能）

(1) 一般・外国人留学生入学試験

外国語、専門科目、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。

(2) 社会人特別入学試験

小論文、口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。

(3) 推薦入学試験

口述試験及び出願書類により総合判定して合格者を決定します。